

救急告示医療機関での救急患者受入状況(平成20年～23年の比較)

1. 受入患者数(平成20年～平成23年の11月の1ヶ月間)

受入患者総数

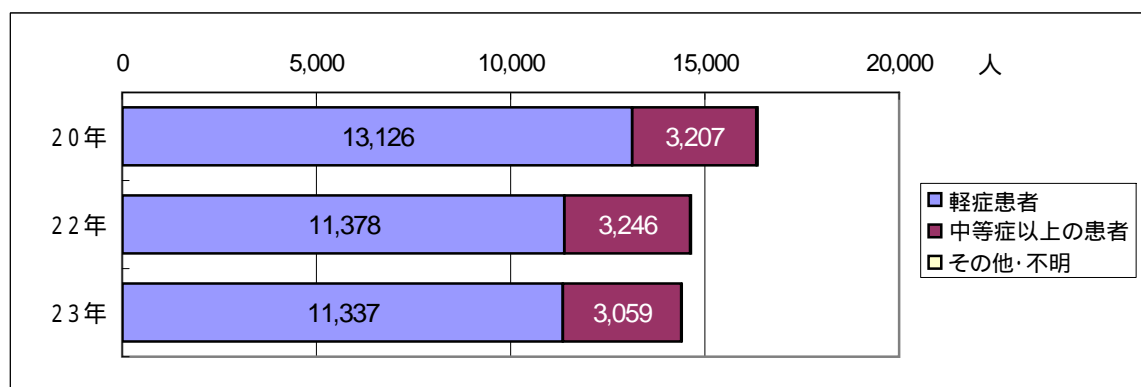
	救急告示病院	受入患者	1病院当たり患者数	1日当たり患者数
平成20年	60	16,362	273	545
平成21年	59	21,205	359	707
平成22年	59	14,647	248	488
平成23年	60	14,415	240	481

平成20年から23年の4年間の受入患者数を比較すると、平成21年は新型インフルエンザの影響で増加したものの、平成22、23年と減少している。

以下、新型インフルエンザの影響があった平成21年を除き、3年間を比較。

症状の程度別患者数

	特に軽症	軽症	中等症	重症	重篤	死亡	その他・不明	計
平成20年	-	13,126	2,418	546	106	137	29	16,362
平成22年	4,744	6,634	2,462	569	99	116	23	14,647
平成23年	4,885	6,452	2,395	472	73	119	19	14,415
増減(23-20)		1,789	23	74	33	18	10	1,947

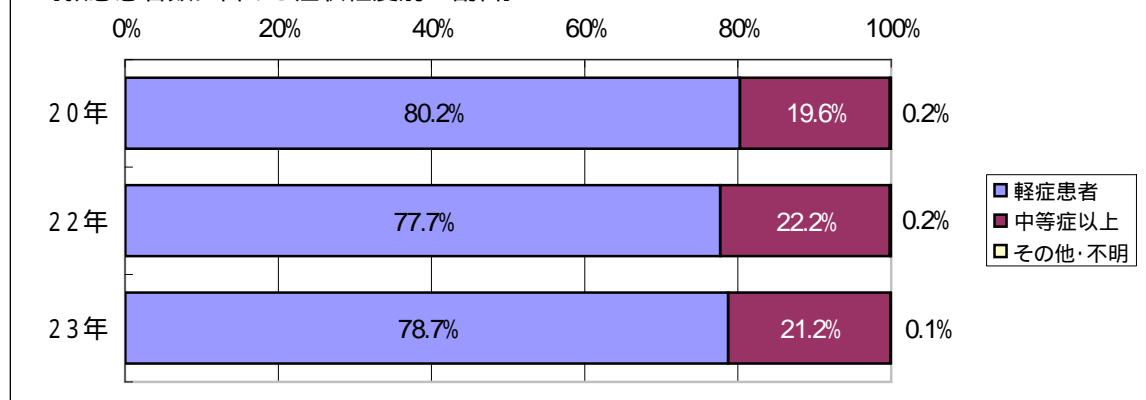


軽症患者: 特に軽症+軽症

中等症以上の患者: 中等症+重症+重篤+死亡

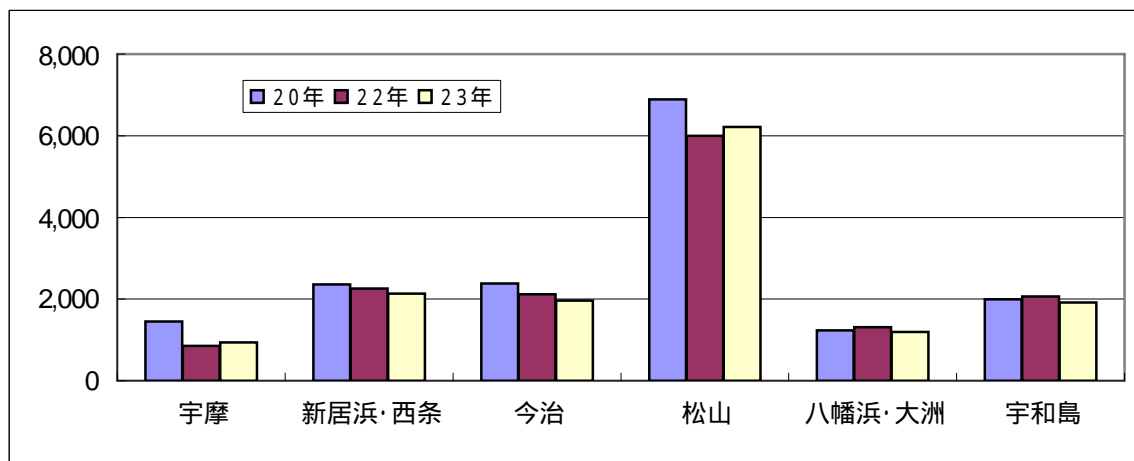
H20-23比較で、救急患者は1,947人減少(11.9%)し、軽症患者も1,789人減少(13.6%)している。H22-23比較でも、救急患者は232人減少(1.6%)し、軽症患者も41人減少(0.4%)している。

【救急患者数に占める症状程度別の割合】



1 - 1 . 医療圏別患者数

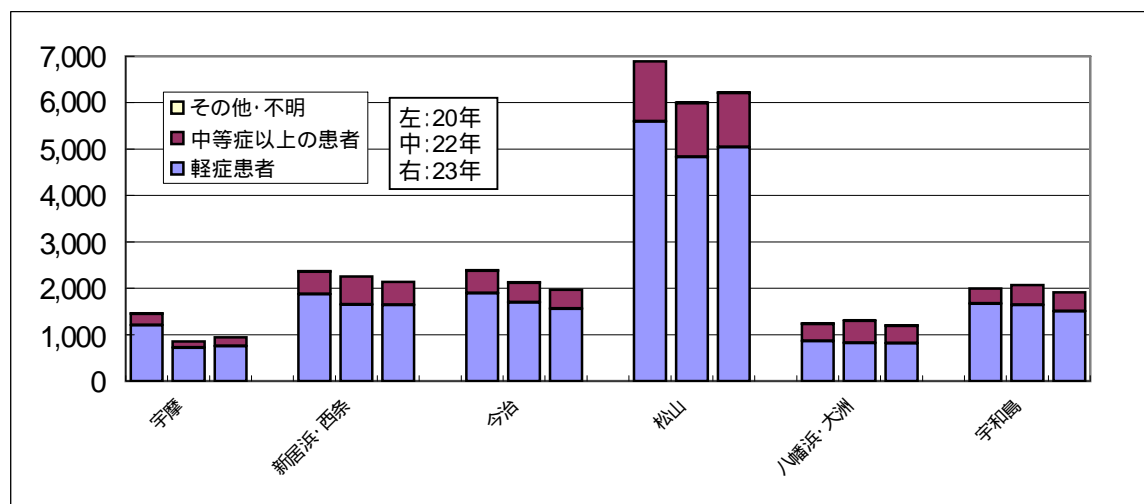
	宇摩	新居浜・西条	今治	松山	八幡浜・大洲	宇和島	計
20年	1,459	2,368	2,388	6,900	1,244	2,003	16,362
22年	861	2,262	2,128	6,002	1,319	2,075	14,647
23年	950	2,145	1,974	6,220	1,205	1,921	14,415
増減 (23-20)	509	223	414	680	39	82	1,947



医療圏別では、H20-23比較で、すべての医療圏で救急患者が減少している。H22-23比較では、松山圏域と宇摩圏域で増加している。なお、H20-22比較で増加した八幡浜・大洲圏域と宇和島圏域は、減少に転じている。

< H20 H23増減率 > : 宇摩圏 34.9%、新居浜・西条圏 9.4%、今治圏 17.3%
松山圏 9.9% 八幡浜・大洲圏 3.1%、宇和島 4.1%

1 - 2 . 医療圏別・症状の程度別患者数



H20-23比較で、軽症患者は、すべての医療圏で減少している。H22-23比較では、松山圏域と宇摩圏域で増加している。

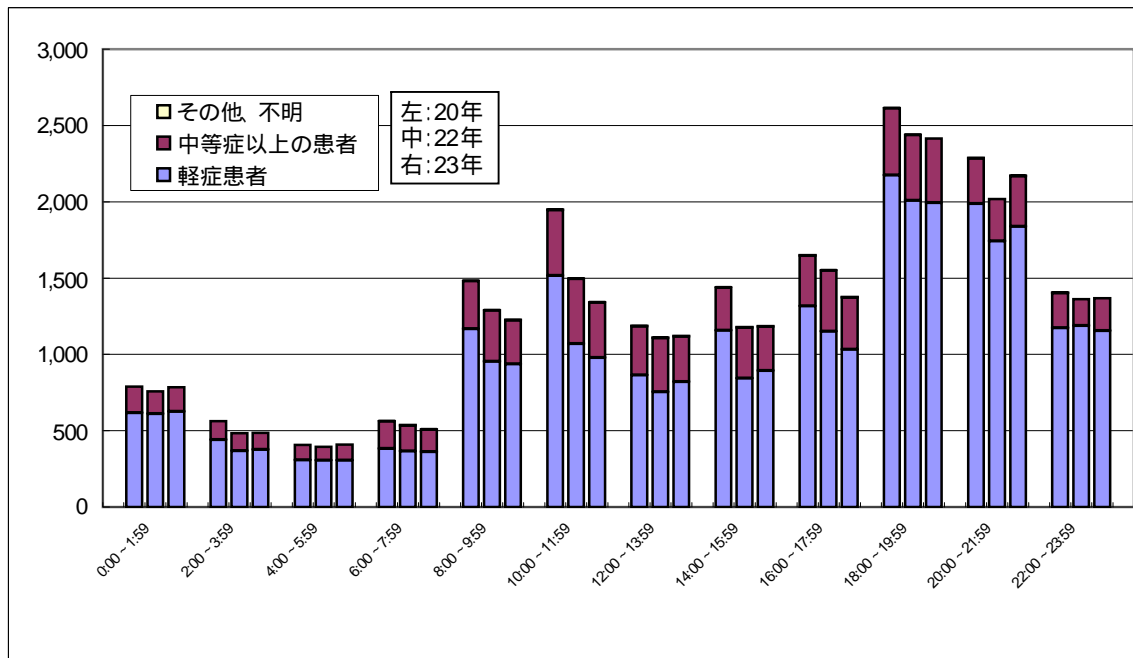
< H20 H23増減率 > : 宇摩圏 37.4%、新居浜・西条圏 12.2%、今治圏 17.8%、
松山圏 9.9%、八幡浜・大洲圏 5.8%、宇和島圏 9.7%

2. 時間帯別患者数

2 - 1. 時間帯別患者数

	20年度	22年度	23年度	増減 (23-20)	増減率 (23-20)
0:00 ~ 1:59	792	760	787	5	-0.6%
2:00 ~ 3:59	565	485	488	77	-13.6%
4:00 ~ 5:59	409	396	411	2	0.5%
6:00 ~ 7:59	566	537	512	54	-9.5%
8:00 ~ 9:59	1,487	1,293	1,226	261	-17.6%
10:00 ~ 11:59	1,949	1,502	1,345	604	-31.0%
12:00 ~ 13:59	1,187	1,111	1,122	65	-5.5%
14:00 ~ 15:59	1,442	1,180	1,186	256	-17.8%
16:00 ~ 17:59	1,650	1,554	1,377	273	-16.5%
18:00 ~ 19:59	2,617	2,443	2,417	200	-7.6%
20:00 ~ 21:59	2,287	2,021	2,172	115	-5.0%
22:00 ~ 23:59	1,406	1,364	1,371	35	-2.5%
不明	5	1	1	4	-80.0%
計	16,362	14,647	14,415	1,947	-11.9%

2 - 2. 時間帯別・症状の程度別患者数



H20-23比較で、ほとんどの時間帯において救急患者が減少している。

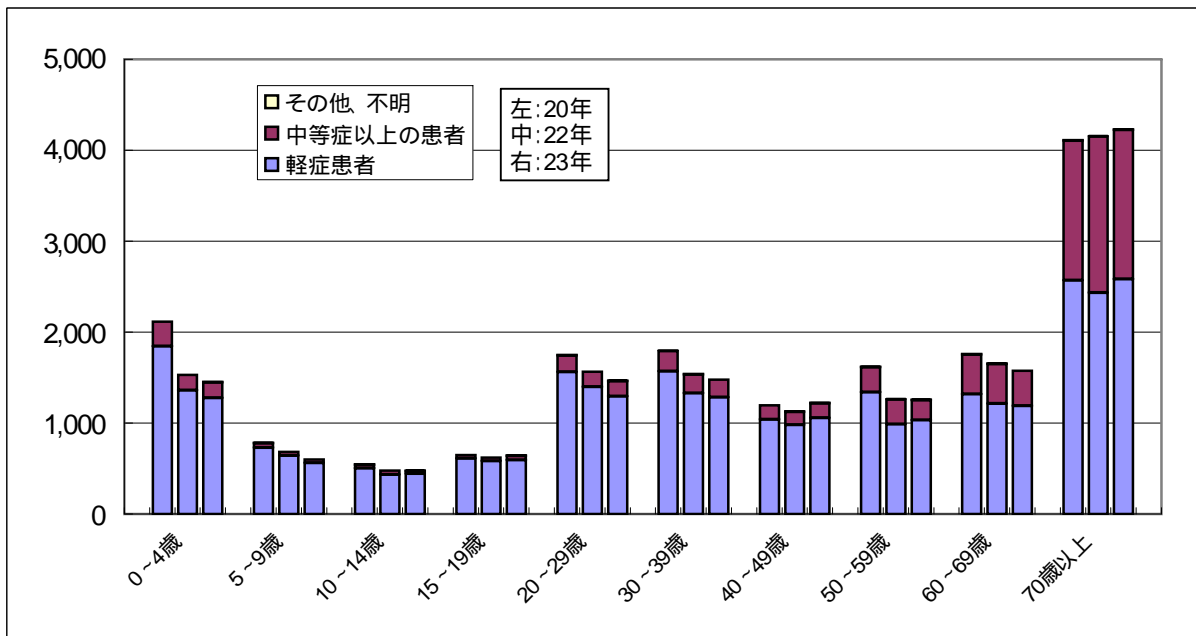
なお、日中の時間帯の減少率が大きいのは、H20年11月は平日18日間、土日祝日12日間、H23年11月は平日20日間、土日祝日10日間と、曜日の割合が違うことにより生じたと思われる。

3. 年齢階層別患者数

3 - 1. 年齢階層別患者数

	20年度	22年度	23年度	増減 (23-20)	増減率 (23-20)
0～4歳	2,117	1,534	1,452	665	-31.4%
5～9歳	783	688	604	179	-22.9%
10～14歳	546	480	476	70	-12.8%
15～19歳	652	623	643	9	-1.4%
20～29歳	1,748	1,568	1,468	280	-16.0%
30～39歳	1,803	1,539	1,482	321	-17.8%
40～49歳	1,197	1,128	1,222	25	2.1%
50～59歳	1,619	1,267	1,257	362	-22.4%
60～69歳	1,760	1,655	1,580	180	-10.2%
70歳以上	4,112	4,162	4,231	119	2.9%
不明	25	3	0	25	-100.0%
計	16,362	14,647	14,415	1,947	-11.9%

3 - 2. 年齢階層別・症状の程度別患者数



H20-23比較で、「40～49歳」、「70歳以上」以外の年齢階層で救急患者が減少。減少率は「0～4歳」が31.4%、「5～9歳」が22.9%、「50～59歳」が22.4%と大幅に減少しているほか、コンビニ受診が懸念される「20～29歳」、「30～39歳」の勤労者層においても16%以上の減少が見られる。

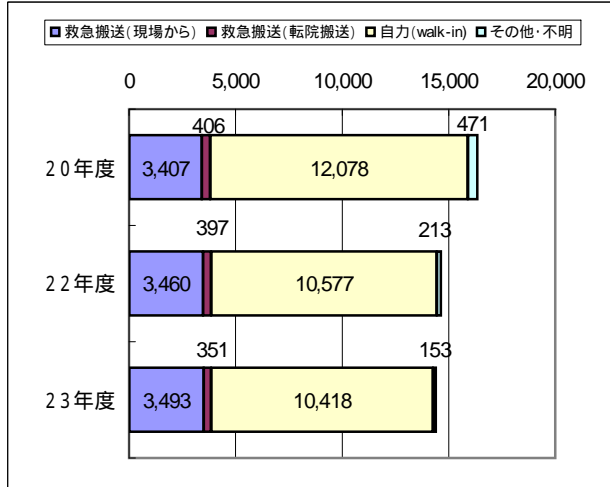
なお、軽症患者についても同様の傾向である。

(参考) 小児救急医療電話相談 (#8000) の利用者数

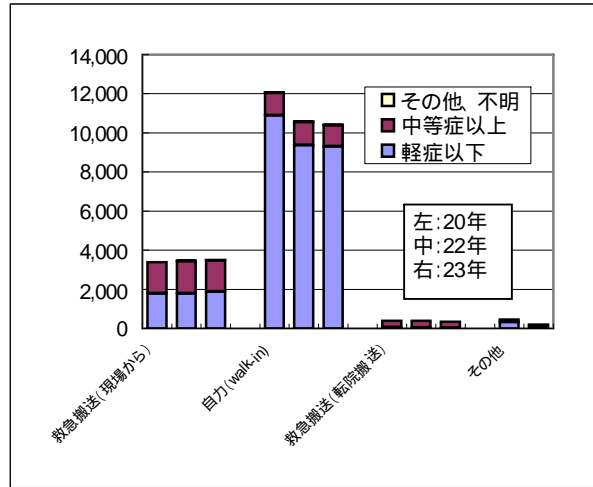
1日平均利用者: 20年11月 4.5件、23年11月 13.0件 2.88倍

4. 来院形態別患者数

4-1. 来院形態別患者数



4-2. 来院形態別・症状の程度別患者数

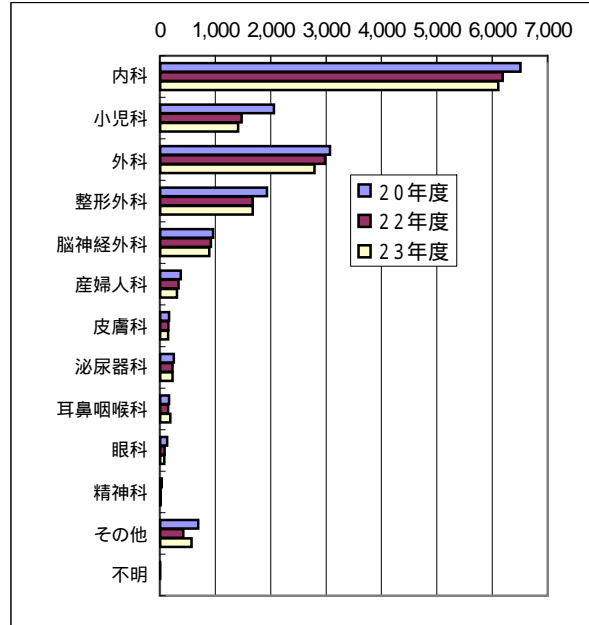


H20-23比較で、自家用車等を利用し自力で来院する患者(walk-in)が減少(1,660人、13.7%)している。なお、減少数の大半は軽症患者(1,591人)である。

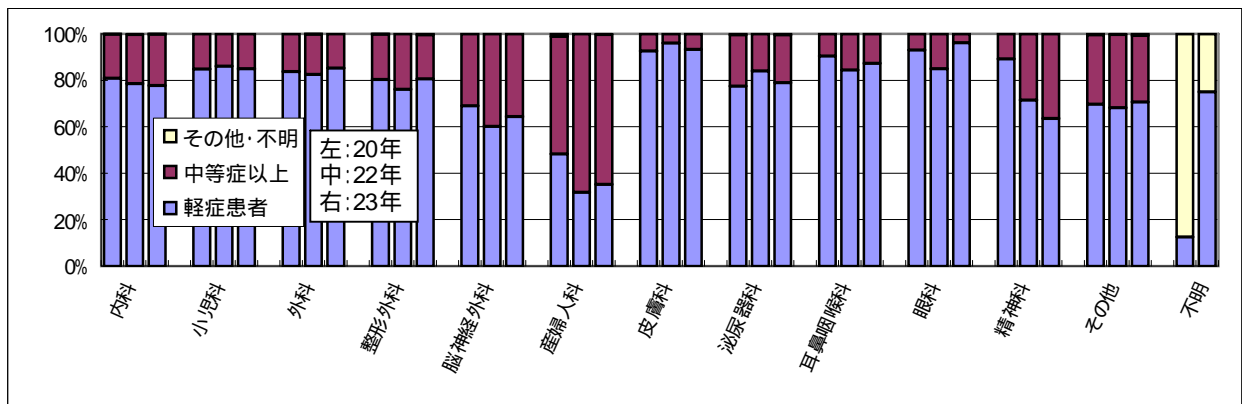
5. 主な受診科別患者数

5-1. 主な受診科別患者数

	20年度	22年度	23年度	増減(23-20)
内科	6,507	6,190	6,108	399
小児科	2,058	1,478	1,410	648
外科	3,072	2,982	2,788	284
整形外科	1,934	1,675	1,678	256
脳神経外科	963	922	892	71
産婦人科	379	337	310	69
皮膚科	163	154	150	13
泌尿器科	249	231	228	21
耳鼻咽喉科	168	148	189	21
眼科	130	87	78	52
精神科	37	14	11	26
その他	694	425	573	121
不明	8	4	0	8
計	16,362	14,647	14,415	1,947



5-2. 主な受診科別・症状の程度別患者比率



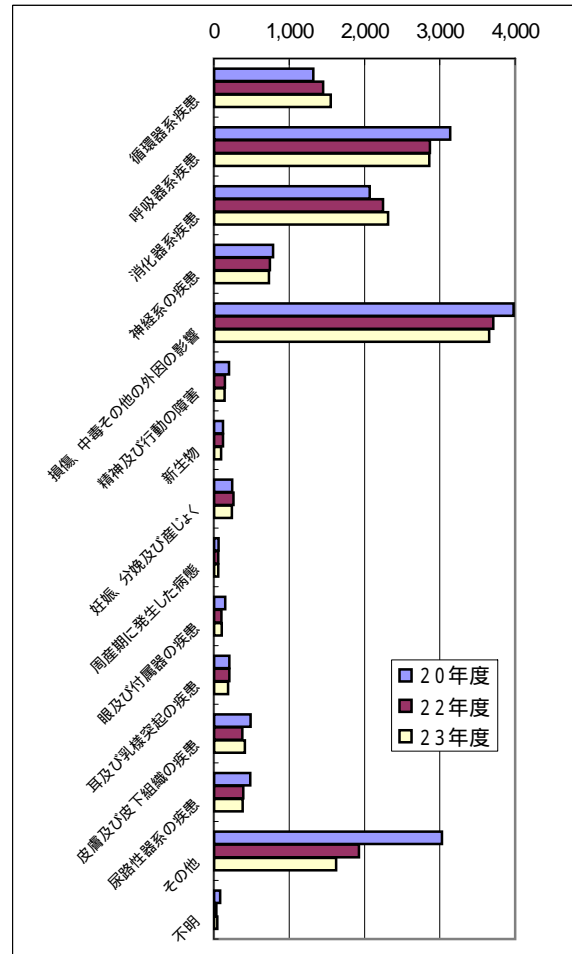
H20-23比較で、耳鼻咽喉科以外の受診科において患者数が減少しているが、小児科の減少率が31.5%(648人)と特徴的である。

また、受診科によって軽症患者の比率が大きく変わり、産婦人科においては中等症以上の患者が64.5%を占める。

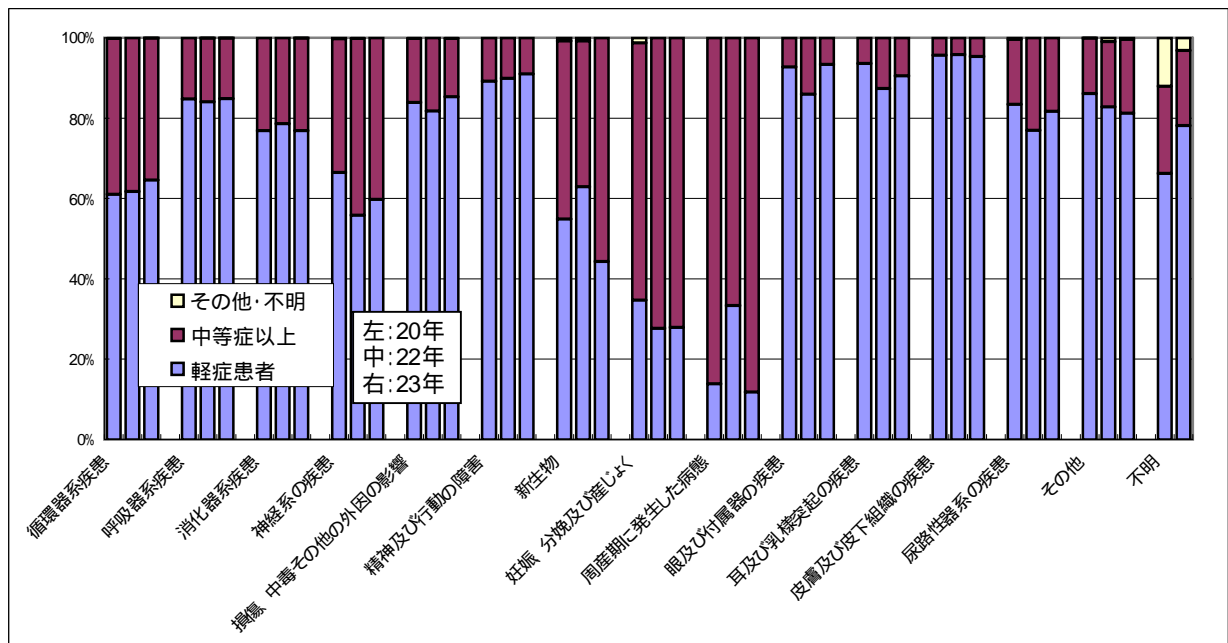
6. 主な傷病別患者数

6-1. 主な傷病別患者数

	20年度	22年度	23年度	増減 (23-20)
循環器系疾患	1,319	1,450	1,553	234
呼吸器系疾患	3,136	2,867	2,860	276
消化器系疾患	2,069	2,248	2,315	246
神経系の疾患	788	745	731	57
損傷、中毒その他の 外因の影響	3,981	3,711	3,656	325
精神及び行動の 障害	203	149	145	58
新生物	122	124	97	25
妊娠、分娩及び 産じょく	242	260	240	2
周産期に発生 した病態	65	57	59	6
眼及び付属器 の疾患	152	100	106	46
耳及び乳様突 起の疾患	204	206	190	14
皮膚及び皮下 組織の疾患	488	380	411	77
泌尿器系の 疾患	483	391	382	101
その他	3,027	1,927	1,625	1,402
不明	83	32	45	38
計	16,362	14,647	14,415	1,947



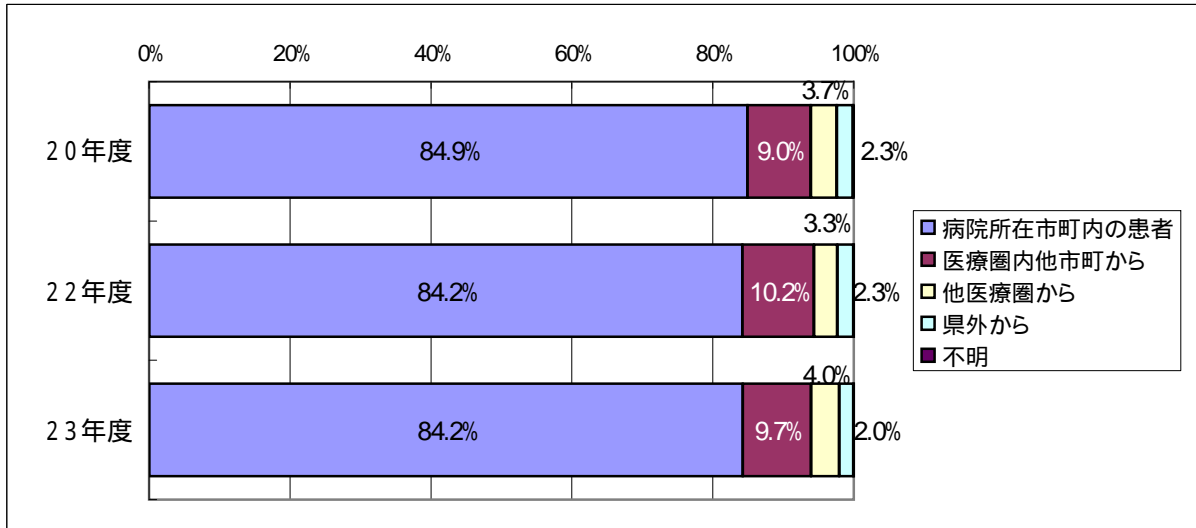
6-2. 主な傷病別・症状の程度別患者比率



H20-23比較で、「循環器系」、「消化器系」を除く全ての傷病において減少している。
また、傷病によって軽症と中等症以上の患者比率が大きく変わり、妊婦や出産に関する傷病においては、中等症以上の患者が70%以上を占めている。

7. 居住地域別の患者比率

	病院所在市 町内の患者	医療圏内 他市町から	他医療圏 から	県外から	不明	計
20年度	13,889	1,474	604	373	22	16,362
22年度	12,332	1,487	488	335	5	14,647
23年度	12,140	1,399	579	293	4	14,415
増減 (23-20)	1,749	75	25	80	18	1,947



H20-23比較で、主に病院所在市町内の患者数が1,749人減少(12.6%減)しているが、医療圏内に在住の患者数の割合では93.9%となり、変化はない。

8. 男女別の患者数

男性

	20年度	22年度	23年度	増減 (23-20)
軽症患者	6,799	5,795	5,738	1,061
中等症以上	1,647	1,546	1,464	183
その他・不明	17	16	13	4
計	8,463	7,357	7,215	1,248

女性

	20年度	22年度	23年度	増減 (23-20)
軽症患者	6,325	5,583	5,599	726
中等症以上	1,559	1,700	1,594	35
その他・不明	10	7	6	4
計	7,894	7,290	7,199	695

H20-23比較では、救急患者数・軽症患者数ともに女性に比べ、男性の減少率が大きくなっているが、軽症患者の割合では女性が1.7ポイント低い。

